

市民が主人公!

市民に寄り添える日野市に!

「給付型奨学金」

廃止に反対

日野市は、低所得世帯の高校生向けに、毎月一万円を給付する奨学金制度を三十年前に創設しています。

全国的にも先進的な制度だったのですが、東京都が高校授業料を無償化した事をもって、廃止してしまいました。

しかし、この制度は、授業料が無料となったくらいでは貧困から抜け出せない子達を救ってきたのです。

「生まれ育ったまちが日野市で良かった!」と感謝される制度を廃止する事について反対しました。(反対は7人)

保護猫活動への支援を!

市内ボランティア団体と市が協力して、飼い主のいない猫を保護し、里親に繋いだ事によって、市内で飼い主のいない猫を見かけなくなりました。

大きな成果が出た反面、里親が見つからない猫は、ボランティア団体が抱えてくださっているのです。

よって、シェルターの運営にも支障を来しているのに、令和7年度の保護猫の予算は、1000万円から175万円に減額。

奥野りん子は、予算の増額を求めました。



市は、データセンターではなく、住民を守れ!

日野市は、データセンターを開設する三井不動産から、既に12月8日の段階で、「市からの指導に対する見解書」と「開発事業申請書の提出」を受けていたにも関わらず、秘密にしていた事が判明しました。明らかに、市の規則にある「市民に対して速やかに公告縦覧する」に反しています。

市は「市の指導内容に合致しているか、点検してから公開するつもりだった」と弁明しているものの、「市は三井不動産に対して何を指導したのか?」さえも秘密にしています。「大企業の権利を守ることを優先するのではなく、近隣住民の住環境が侵害されないよう頑張るべき!」と抗議しました。

農家を苦しめる市の実態を告発!

倉沢では、40年前に市から依頼されて植樹したりんごが育ち、学校給食に提供されています。

「実がなる頃までに出荷用の道路を整備する」という農家との約束を、市はいまだに果たしていません。

「自治体が契約不履行を犯すなど言語道断!」と、議会で問題にした結果、日野市がりんご農家との話し合いに入りました。

区画整理組合への再助成に苦言!

「川辺堀之内区画整理事業に不足する資金」を、新たに組合に助成するかを審議しました。元副市長から会計報告を受けていた組合監事は「区画整理を知らない単なる農家」ではない経歴をもつ事を告発し、市が嘘をついていた事を批判しました。

また、元副市長からの返還金を収入に含めていない事を突き止め、市への返還を義務づける事に成功しました。



りん子通信 No.1057
携帯:080-6548-1478

発行人:奥野りん子
発行日:2026年1月